

令和 3 年度 西小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

豊かな創造力を持ち、思いやりのある心情、たくましい気力と体力、自主的精神に満ちた実践力のある児童を育成する。

(2) 具体目標

- よく考え、学ぶ子どもを育てる。(考える)
- 思いやりのある子どもを育てる。(思いやる)
- 心身を鍛える子どもを育てる。(鍛える)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるための課題意識を持ち、その解決を図るために、知識・技能を確実に身に付け、活用して、自分の考えを持ち、他者の意見と比べながらよりよく考える、コミュニケーション力のある児童の育成をめざした学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

- ① 教材やICT等を効果的に活用しながら、「宇都宮モデル」などを踏まえ、授業の展開・改善を図る。
- ② 児童が学び合える活動を工夫し、多様な考えに触れ、相互に関連付けたり、共通点や相違点を見出したりすることができるよう教師がコーディネートする授業展開を図る。

(2) 他者への思いやり、基本的な生活習慣、規範意識、自己肯定感の育成

- ① 宮っ子心の教育、人権教育、体験活動、読書活動、児童生徒指導の充実により、他者への思いやりや規範意識を育む。
- ② 役割を分担し、協力して取り組む機会や異年齢交流を通して、年少者の世話をする機会等を充実させるとともに、様々な体験活動を通じて、達成感や成功体験を得させることにより、自己肯定感を育む。
- ③ 「あいさつ」「返事」「時間」「生活リズム」「言葉遣い」を中心に、基本的な生活習慣を身に付けさせる。

(3) 体力の向上と健康の保持増進

- ① 元気アップ教育の推進により、「体力の向上」、「保健教育」、「食育」、「安全教育」の4つの教育を一体的に捉えながら健康に生活できる心と体を育成する。
- ② 教科体育の充実を図り、基礎的な体力と運動やスポーツに親しむ態度を育成する。
- ③ 食育の推進を通して、望ましい食習慣を形成する。

(4) 教職員の資質能力の向上

- ① 自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を高めるとともに、学校作りのチームの一員として、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む専門的な力を身に着ける。
- ② 授業研究会を軸とした校内研修の充実により、相互に高め合い、学びあう協働的な同僚性を構築し、教職員の実践的指導力と専門性を向上させる。
- ③ 業務改善を推進することにより、ワークライフバランスのとれた働き方の実現を図り、教職員一人一人が、心身共に健康で、能力を最大限に発揮できるようにする。

(5) 地域とともにある学校づくりの推進

- ① 学校、家庭、地域が目標やビジョンを共有し、相互に連携・協働することによって、子どもたちの豊かな学びと成長を実現する。
- ② 学校園における小中の連携と、義務教育9年間を一体とした指導によって、学校生活へ円滑に適応させ、学力を保障する。
- ③ 学校及び教師が担う業務の明確化・適正化に努め、学校、家庭、地域が適切な役割分担のもと、相互に連携・協力を推進する。

[一条地域学校園教育ビジョン]

「基本をしっかり身に付け、地域に生きる子どもを育む一条地域学校園」

4 教育課程編成の方針

- 1 教育基本法及び学校教育法その他の法令並びに学習指導要領、宇都宮市立小中学校の教育課程及びその編制基準に従い、教育課程を編成する。
- 2 うつのみや学校マネジメントシステム、学習内容定着度調査等の各種調査結果やデータを効果的に活用し、児童の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、特色をもった教育課程を編成する。
- 3 学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成していくことができるよう、教科横断的な視点からの教育課程の編成に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学校運営】 よりよい学校生活を築くための課題意識を持ち、その解決を図ろうとする児童の育成
- 【学習指導】 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした指導方法の工夫
- 【児童生徒指導】 規範意識を高め、自主的・自発的に行動し、自己肯定感を育む指導の育成
- 【健康（体力・保健・食・安全）】 基礎体力の向上と望ましい食習慣の形成をめざした指導の実践

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
指導する児童	<p>A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「児童は授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 児童の肯定的回答 ⇒85%以上</p>	<p>確かな学力を育むため、知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力、及び学びに向かう力を養うなどして、学習指導を充実させる。</p> <p>① 「宇都宮モデル」を活用した授業改善を推進する。 ※「宇都宮モデル」とは、学習課題を「はっきり」、課題への取り組みを「じっくり」、まとめを「すっきり」という授業のスタイルのこと</p> <p>② 「西小よい子の学習の約束」を活用し、基本的な学習態度の指導を徹底するとともに、児童が積極的に自分の考えを発言できる雰囲気をつくる。</p> <p>③ 家庭学習の習慣化に向け、家庭学習強化週間の設定を行う。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は95%であり、数値指標を上回った。学校課題における授業研究会を中心に授業改善に取り組んできたことで、友達の考えをよく聞いたり、自分の考えを進んで話したりしようとする児童の姿が見られるようになってきた。日頃の授業の様子からは、学習用具がそろわない、授業中の私語等、学習に向かう姿勢において課題がある。</p> <p>【次年度の方針】 「学習の約束」や「授業のきまり」などについて学習態度を身に付けさせるべく、基礎基本の徹底を図る。 また、家庭学習強化週間などを設け、家庭学習の習慣化に向けた取り組みを家庭に発信していくなど継続指導していく。</p>

の 姿	<p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 児童の肯定的回答 ⇒90%以上</p>	<p>思いやりの心を育てるため、「宮っ子心の教育」を充実させるなどして、豊かな心を育む教育を推進する。</p> <p>① 自分との関わりで道徳的価値について多面的・多角的に考え、話し合う「道徳科」の授業づくりに取り組む。</p> <p>② 児童のよさや努力等を積極的に認め励まし、学級全体に広めたり、家庭に知らせたりする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 88.1%であり、数値指標をやや下回ったが、昨年度と比較して8%上昇している。「とても思う」の回答が昨年度より22.7%上昇していて、思いやりの心が育ってきている。学級や学校全体で一人ひとりのよさや努力を認め励ます機会を設定したことで、児童が互いのよさに気づき、思いやりのある行動が増えてきているが、他者意識が足りないことで、相手の意に沿わない行動をしてしまう場面もみられている。</p> <p>【次年度の方針】 道徳科の授業を中心に引き続き、物事を多面的・多角的に捉えながら周囲の人とかかわれるように、丁寧に指導にあたっていく。また、学校全体で、児童一人ひとりを認め励ます場面を設定していくことで、周囲の人を優しく認めていく雰囲気づくりに努める。</p>
	<p>A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 児童の肯定的回答 ⇒85%以上</p>	<p>規範意識を育むため、児童指導及び「道徳科」の授業を充実させるなどして、豊かな心を育む教育を推進する。</p> <p>① 「西小よい子の一日」を意識して生活できるよう指導するとともに、自分の生活を振り返る機会を設定し、定着を図る。</p> <p>② 児童会や委員会が主体となり、生活のきまりについて啓発する場を設定する。</p> <p>③ 年度初めに年間を通した生活のきまりやマナーを設定し、時期に応じて強化項目を決め、校内巡回指導をしながら定着を図る。学校生活における指導の方向性について全教職員で徹底を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 86.2%で昨年度から15.1%上昇し、数値指標を上回った。「とても思う」と回答した児童が昨年度の13.9%から27.7%まで上昇している。いじめゼロ集会の運営や、生活目標や感染症対策の啓発等様々な委員会で児童が主体となって取り組む機会の増加や、「西小よい子の一日」をもとにした指導の方向性の徹底等が、学校のルールやきまりへの意識の高まりにつながった。休み時間の過ごし方や教室移動の仕方、時間の管理など継続して指導が必要な部分もある。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き全職員で指導の方向性を統一しながら規範意識の育成を図っていく。その際には、どうして守るのかということも十分に指導し、理解させることで適切な行動が自然とできるようにしていく。</p>
	<p>A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 教職員肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>自分から進んで気持ちのよいあいさつができるようにするため、あいさつ運動を充実させるなどして、豊かな心を育む教育を推進する。</p> <p>① 児童会や各学年代表児童によるあいさつ運動を展開し、自分から進んで挨拶に取り組む実践を積ませる。</p> <p>② 学級での授業開始・終了時や特別教室での入退室時など、時と場面に応じたあいさつの指導を徹底する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的な回答は 100%で数値指標を上回り、児童のあいさつへの意識の高まりが伺える。その反面地域住民の肯定的回答が15%程度減少していて、学校で身に付いてきているスキルが登下校等校外の場で生かされていない。</p> <p>【次年度の方針】 代表委員の児童に限らず、あいさつ運動を行うことで、多くの児童があいさつをする意義について実感できる機会を増やす。また、挨拶をしたことによる心の動きについて、様々な場面で触れることで、学校外においても自然と気持ちのよい挨拶ができるようにする。</p>

<p>A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>やり遂げる達成感を味わわせるため、学校行事や各教科の指導の工夫に取り組み、失敗や困難を乗り越えて挑戦し続けるたくましさを涵養する。</p> <p>① 「挑戦する」「がまんする」「あきらめない」について学校行事等を通して体験できるよう指導する。</p> <p>② 各教科の学習において、既習事項をもとに解くことができる発展的な課題に取り組ませる授業を仕組む。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 93.8%であり、数値指標を大きく上回った。目標をきちんと立てさせること、見通しをもって解決に当たらせ、振り返りを行うことなどを意識して指導にあたってきた。</p> <p>【次年度の方針】 行事、学習などすべてにおいて、児童自身に目標を持たせ、終わった後には、振り返りをさせ、次の活動の目標につなげる意識をもたせていく。この指導のサイクルを意識して教育活動を行っていき、児童が目標に向かって頑張るということを、体験を通して学べるように指導していく。</p>
<p>A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 児童の肯定的回答 ⇒90%以上</p>	<p>心身ともに健康で、たくましい児童を育てるため、「元気アップ教育」を充実させるなどして、健康で安全な生活を実現する力を育む教育を推進する。</p> <p>※「元気アップ教育」とは、「体力向上」「保健教育」「食育」「安全教育」について小中9年間を通して取り組む教育活動のこと。</p> <p>① 教科体育における運動量の確保や元気っ子チャレンジへの参加やがんばりカードの積極的活用を通して体力を向上させる。</p> <p>② 養護教諭や学校栄養士と連携した授業に取り組み、健康への関心を高める。</p> <p>③ 避難訓練や地域安全マップの作成をはじめ、学校教育全体を通して、危険を予測し、自分の命は自分で守ることの大切さについて指導する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答が 89.9%で数値指標に満たなかったが、昨年度と比べると、7.4%上昇している。衛生面の意識が高まった結果、健康や安全を心掛ける行動につながった。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き新しい生活様式の中で「体力向上」「保健教育」「食育」「安全教育」の指導の充実を図り、児童の健康や安全に対する意識を高める。</p>
<p>A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 保護者の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>自分のよさや頑張りに気付かせ、自己有用感を高めるようにするため、「宮・未来キャリア教育」の充実を図るなどして、将来への希望と協働する力を育む。</p> <p>① 特別活動において、一人一人の持ち味を生かした役割分担を行う。</p> <p>② 総合的な学習の時間・生活科・特別活動などを中心に、活動の振り返りを確実にを行い、自分のよさや成長に気付かせる指導を行う。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は 71.9%であり、数値指標を下回った。学校行事や授業において、目標をもたせ、自分の学びを振り返る活動を行ってきた。</p> <p>【次年度の方針】 自分自身の役割に責任をもって取り組めるように児童を支援するとともに、頑張りを認め励まし、発信できるように努める。また、生活科・総合的な学習の時間で「宮・未来キャリア教育」に深く関連する単元について、学習の振り返りを児童の口や目標に繋げられるよう指導を工夫していく。学年便り等で発信し、家庭との連携を図っていく。</p>

<p>A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 児童の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるため、英語教育の充実を図るなどして、「グローバル社会」に対応する教育を推進する。</p> <p>① ALT を活用し、ネイティブの英語に触れる機会を十分に確保する。 ② 外国語の授業では、英語によるやりとりを中心とした授業を展開し、英語で伝え合う楽しさを味わわせる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 88.1%であった。本校は、高学年の週 1 時間を除き、すべて ALT との T.T による授業であるため、英語によるコミュニケーション中心の授業が展開されている。</p> <p>【次年度の方針】 ALT との連携を密にし、児童が積極的に英語でコミュニケーションを図れるような授業展開を工夫し、英語教育の充実を図る。</p>
<p>A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 児童の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>宇都宮の伝統や文化に愛情と誇りをもてるようにするため、郷土への愛情を育む学習の充実を図るなどして、郷土愛を醸成する教育を推進する。</p> <p>① 3 学年社会科における郷土の学習や「地域が先生」における「ふくべ細工」「百人一首」等の学習活動の充実を図る。 ② 総合的な学習の時間における「宇都宮学」の学習を通して、郷土愛を育む。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 86.8%であり、数値指標を上回った。「宇都宮学」の学習が始まったことに加え、「地域が先生」における体験的な学習活動も充実しており、郷土宇都宮への愛情を育むことができています。</p> <p>【次年度の方針】 「宇都宮学」の学習や「地域が先生」、6 年生の総合的な学習「インターンシップ」などの体験学習を通し、宇都宮への郷土愛を育ませる授業を展開する。</p>
<p>A 10 児童は、ICT 機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 児童の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>情報活用能力を身に付けさせるため、情報活用能力を育成する教育の充実を図るなどして、「情報社会」に対応する教育を推進する。</p> <p>① 道徳や学級活動における情報モラル教育を確実に実施する。 ② ICT 機器や図書、新聞等を活用した授業を展開し、児童が必要に応じて情報手段を活用できるよう指導する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 88.7%であり、数値指標を上回っている。情報モラル教育については、道徳等において指導してきた。GIGA スクール構想により、タブレットを使用した学習が増え、授業の中で活用し家庭に持ち帰るなど計画的に使用していた。高学年において児童が ICT 機器を自ら操作するスキルを身に付け、学習活動を展開できている。</p> <p>【次年度の方針】 情報モラルについて発達段階に応じて指導していく。単元に応じて情報機器や図書資料など使い分けると共に、司書教諭との連携を図り指導していく。</p>
<p>A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわり的心をもっている。</p> <p>【数値指標】 「児童は誰に対しても思いやりの心をもっている」 地域住民の肯定的回答 ⇒85%以上</p>	<p>高齢者への感謝や尊敬の心を育てるため、高齢者とふれあう機会の充実を図るなどして、「少子高齢社会」に対応する教育を推進する。</p> <p>① 高齢者を講師として招き、高齢者の知恵や人生経験に学ぶ機会を設定する。 ② 高齢者を学校行事に招待したりするなどして、高齢者とふれあう機会を設定する。 ③ 各学年における授業や、「ありがとう集会」等、感謝の気持ちをもって参加できるよう指導する。</p>	<p>【達成状況】 地域住民の肯定的回答が 100%で数値指標を上回っている。今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な行事が実施できない中で、児童会主催の「感謝の会」は実施することができ、日頃お世話になっている方々への感謝の気持ちについて考えさせることができた。</p> <p>【次年度の方針】 生活科や総合的な学習の時間、また、日々の様々な学校生活の場面において高齢者とふれあう場面を設定し、交流を深めることを通して、感謝の気持ちを伝えていく。</p>

	<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 児童の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>「持続可能な社会」について関心を持つようにするため、各教科の学習を通して、「持続可能な社会」に対応する教育を推進する。</p> <p>① 総合的な学習の時間において、環境や国際理解、食をテーマとして地域の学習素材を活かし指導する。</p> <p>② 総合的な学習の時間においては「持続可能な社会」に関する各教科の単元との関連も図りながら教科横断的な学習を展開する。</p> <p>③ 節水や節電、ごみの分別など、日常生活において環境問題を意識した教育活動を実践する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 84.3%であり、数値指標を上回った。社会・理科・家庭科の学習において指導し、学校生活においてもごみの分別等は日常的に行っている。</p> <p>【次年度の方針】 社会に目を向けさせ、児童の興味関心を引き出させるよう努めるとともに、「SDGS」など具体的な知識の習得を図る。また日常生活において、環境に配慮した取り組みなどの実体験を意識した教育活動を設定する。</p>
	<p>B1 児童は、異年齢の友達と遊んだり、年少者をいたわりながら活動したりしている。</p> <p>【数値指標】 「私は、ほかの学年の友達と仲よく遊んだり、協力して活動したりしている。」 児童の肯定的回答 ⇒85%以上</p>	<p>他者への思いやりの心や自己肯定感を育むため、縦割り班による活動を充実させて、学年や立場に応じた態度で活動できるようにする。</p> <p>① 縦割り班による清掃活動において、上級生が下級生の世話をしながら清掃に取り組めるよう指導する。</p> <p>② わくわくタイム、クラブ、委員会活動などの異学年交流の場で、学年に応じた役割を与え、異年齢の友達と積極的に交流が図れるよう指導する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答が 89.3%で数値指標を上回った。昨年度同様に異学年交流の場は制限される場面があったが、今年は縦割り班のメンバーで清掃活動を実施したことで、同じ班の児童同士の関係性が強まり、上級生・下級生それぞれの立場で積極的にかかわることができた。休み時間にも、自然と異学年がかかわり合って遊ぶ姿が多く見られている。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き新しい生活様式の中で実施可能な活動を精選し、異学年交流の場を設定することで、他者への思いやりの心や自己肯定感の育成を図る。</p>
<p>目 指 す 学 校 の 姿</p>	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>特別な支援を必要とする児童の様々な教育的ニーズに対応するため、実態に応じて、指導内容や指導方法を工夫するなどして、適切な指導及び必要な支援を行う。</p> <p>① かがやきルーム指導員と学級担任が連携し、かがやきルームにおける指導を充実させる。</p> <p>② 特別な支援を必要とする児童にとっても、わかりやすい指示や教材を工夫して授業を展開する。</p> <p>③ 教育支援委員会やケース会議を開き、共通理解のもと指導にあたり、必要な場合は関係諸機関との連携を図り指導する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%であり、数値指標を大きく上回った。特別な支援を必要とする児童への指導内容や指導方法などについて、関係諸機関との連携を図りながら、ケース会議を重ね、共通理解のもと必要な支援を行ってきた。</p> <p>【次年度の方針】 関係機関との連携を図りながら、ケース会議など職員間の共通理解のもと、全職員が統一した支援を行う。 かがやきルームについては、年度途中であっても見直しを行い、終了や入級を柔軟に実施する。</p>

<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 保護者の肯定的回答 ⇒85%以上</p>	<p>「西小いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ根絶に向け、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、組織的な対応を行うなどして、学校全体でいじめ防止の取組を実践する。</p> <p>① 意識の高揚を図るため、いじめ根絶集会の実施や「ふわふわ・ちくちく言葉」等の日常的な言葉の指導、未然防止につながるような掲示物の作成。(未然防止)</p> <p>② 「親子で考える道徳」の実践を通して、道徳的価値について家庭と連携して指導していく。</p> <p>③ 学校生活アンケートや Q-U 調査結果をもとにした教育相談を実施するとともに個に応じた指導を実施する。(早期発見・早期対応)</p> <p>④ 同僚や管理職への「報・連・相」、「いじめ等対策委員会」の開催などを確実にし、情報を共有して、適切に対応する。(組織的な対応)</p> <p>⑤ いじめ根絶に向けた取り組みを便りや HP を通じて家庭や地域に情報発信し、連携して児童を見守る体制の構築していく。</p>	<p>【達成状況】 いじめゼロ強調月間における「いじめゼロ集会」やいじめゼロ標語等の取り組みや、年4回の学校生活アンケートや個々の教育相談、「親子で考える道徳」の実施などを通して、児童一人ひとりの意識の高揚を図る取組を実践した結果、児童生徒及び教職員は昨年度より肯定的回答が上昇したが、保護者や地域への啓発の機会が少なかったこともあり、保護者の肯定的回答が75.3%で昨年度より2.7%減少し、数値指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 「西小いじめ防止基本方針」に基づき、引き続きいじめ根絶に向けた未然防止の活動を行っていく。特にいじめゼロ強調月間については、活動の充実を図っていく。また、その取り組みを家庭や地域に情報発信し、連携して児童を見守る体制を整えていく。</p>
<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 「先生方は一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 保護者の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>不登校の未然防止、早期発見、早期対応、組織的な対応に努める。</p> <p>① どの児童にとっても自分の居場所となる温かい雰囲気での学級経営を行う。(未然防止)</p> <p>② 担任は児童・保護者に積極的にかかわり、普段からの信頼関係づくりに取り組む。(未然防止・早期発見)</p> <p>③ 児童指導連絡会、欠席状況共有シートや保健室への来室状況などにより児童の状況を把握し、早期に支援の検討を行う。(早期対応・組織的対応)</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答が80.4%で、数値指標は上回っている。各学級の温かい雰囲気での学級経営や、登校時の児童の様子把握、保健室への来室状況の把握や教育相談週間として児童一人ひとりと丁寧な話す機会の設定など、全職員体制で、未然防止、早期対応、組織的対応に努めてきた。</p> <p>【次年度の方針】 担任を中心に全職員の目を通して児童の様子を把握し、児童指導連絡会や日々の情報交換を通して不登校の未然防止、早期発見、早期対応、組織的対応に努めていく。また、保護者との関係を深め、学級での取り組みや家庭での様子についての情報共有に努める。</p>
<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 「教職員は特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて適切な支援をしている。」 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>外国人児童が円滑に学校に編入学し、充実した学校生活を送ることができるよう、外国人児童の受け入れ体制を整備する。</p> <p>① 個性を認め合う受容的な学級づくりを行う。</p> <p>② 人権教育を充実させる。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%であり、数値指標を大きく上回った。</p> <p>【次年度の方針】 外国人児童等の実態に応じて、適切な支援ができるよう、いつでも受け入れ可能な体制を整備する。</p>

<p>A 17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 「私は、今の学校が好きです。」 児童の肯定的回答 ⇒90%以上</p>	<p>児童が自己のよさを生かせるよう、創意工夫した教育活動に取り組む。</p> <p>① 児童会活動を工夫することで、楽しく異年齢交流できるようにする。</p> <p>② 児童の思いや願いを実現できるような学級活動を工夫し、全員が学級への所属意識を持てるようにする。</p> <p>③ 教職員は、児童と共に考えたり遊んだりするなど、児童と向き合う時間を大切にし、信頼関係を構築する。</p> <p>④ 朝わくの回数を増やし、楽しく学校生活をスタートできるようにする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 89.9%で数値指標とほぼ同じである。昨年度より 10.4%上昇した。</p> <p>【次年度の方針】 児童の自主的自発的な活動を支援し、児童主体の活動を増やしていく。また、朝わく等の時間を生かし、児童と教職員で触れ合うとともに活気ある生活を送ることができるようにしていく。</p>
<p>A 18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 児童の肯定的回答 ⇒90%以上</p>	<p>教職員の授業力を高めるため、校内研修を充実させるなどして、実践的指導力と専門性を向上させる。</p> <p>① 「宇都宮モデル」を活用した一人一授業の実施を通して、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を視点とした授業改善に取り組む。</p> <p>② 分かる授業のための教材研究を行い、学び合いを重視した授業を行う。また、教職員同士授業参観の機会を設けるなど、授業の質を上げる。</p> <p>③ ミニ漢字・計算テスト等を計画的に実施し基礎基本を確実に定着させる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 95.0%であり、数値指標を上回った。学校課題での授業研究を中心に、授業改善に取り組み、学力向上を図ってきた。</p> <p>【次年度の方針】 宇都宮モデルを活用した授業を意識し、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を視点とした授業実践を継続する。また、かがやきルーム、習熟度別学習やチームティーチングなど、個に応じた学習支援を継続する。</p>
<p>A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>学校の組織力を強化し、児童への指導・支援の充実を図るため、多様なスタッフの専門性を発揮できるようにする。</p> <p>① 養護教諭や学校図書館司書、学校栄養士業務の専門性を生かした授業を実施する。</p> <p>② インターネットバンキングや学校徴収金システム等の活用により業務の負担軽減を行う。</p> <p>③ SCM を中心として、スクールカウンセラー等と連携することで、児童指導の充実に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%であり、数値指標を大きく上回った。全教職員がそれぞれの立場で、専門性を生かして学校経営に参画している。</p> <p>【次年度の方針】 教職員間で情報共有を図り、多様な専門スタッフの専門性を生かしながら、チームで学校運営に取り組んでいく。</p>

<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 ⇒85%以上</p>	<p>教職員の健康と安全を確保し、質の高い教育活動を維持していくため、勤務時間に対する意識改革や具体的な業務軽減策の実施などを通して、働き方改革を推進する。</p> <p>① 毎月、リフレッシュデーを設定するとともに、金曜日を定時退勤の日として超過勤務時間の削減に努める。</p> <p>② 学級事務支援スタッフや担任以外の教職員と担任が連携し、学級事務の負担軽減につなげる。</p> <p>③ 教材研究等を行うための放課後の時間を確保するために、日課の見直しをするとともに、時間を厳守して生活にメリハリをつける。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率は100%であり、数値指標を大きく上回った。教職員の意識改革が見られる。</p> <p>【次年度の方針】 教材研究の時間を確保するため、会議・打合せの効率化を継続する。全教職員で意識改革を図り、優先すべき仕事の見極め、時間を意識した働き方を進め、ライフワークバランスのとれた勤務にしていく。</p>
<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>児童の学校生活適応と学力保障を目指し、小中教職員の緊密な連携に基づく指導を充実させるなどして、地域学校園を生かした学校運営を推進する。</p> <p>① 地域学校園あいさつ運動、お弁当の日、クリーンアップ活動、西地区大運動会で交流を進める。</p> <p>② 教職員間の交流を図るため、小中一貫の日を設け、研修会や会議等を実施する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%であり、数値指標を大きく上回った。今年度は運動会や宮っ子チャレンジウィークで交流することができた。</p> <p>【次年度の方針】 地域学校園の小中学校と連絡を密に取り合い、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、できる限り計画した活動を実施していく。</p>
<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 「学校は家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 保護者の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>創意ある教育活動を展開するために、専門性のある人材を活用したり、体験的な学習活動を取り入れたりするなどして、地域の教育力を生かした特色ある学校づくりを推進する。</p> <p>① 専門的な知識のある方を講師とする教育活動「地域が先生」等を設定し、児童の豊かな感性を育てる。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は94.5%であり、数値指標を大きく上回った。「地域が先生」を全学年で実施し、児童の感性を育てる体験的な学習活動が展開された。</p> <p>【次年度の方針】 新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、できる活動を工夫して行っていく。地域の教育力を生かした学習活動は、本校の特色であるので、なるべく多くの活動を実施できるよう努める。</p>
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「学校は家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 地域住民の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>家庭・地域とのつながりを強化できるように、地域とのつながりを深めながら、地域の教育資源を有効に活用できる体制づくりを促進するなどして、学校運営を行う。</p> <p>① 各種便りや学校ホームページなどを活用し、学校の様子を積極的に発信する。</p> <p>② 学習支援や環境整備、児童の健全育成・安全確保などについて、「西小魅力ある学校づくり地域協議会」や地域の諸団体との連携を強化する。</p>	<p>【達成状況】 地域住民の肯定的回答は100%であり、数値目標を大きく上回った。地域協議会との連携により、登下校の安全確保、学校支援ボランティアによる授業支援や環境整備など、家庭・地域の協力を得た学校経営が継続できていることに感謝したい。</p> <p>【次年度の方針】 地域の教育資源を活用した学習活動について積極的に発信する。西小魅力協との連携を図り、地域や保護者から、より多くの協力を得られるよう体制づくりを工夫する。企業の出前授業も有効に活用する。</p>

<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 ⇒90%以上</p>	<p>児童及び学校を利用する全ての人が安全に過ごせるように、施設・設備の定期的な安全点検の実施などを通して、教育環境を整備する。</p> <p>① 月1回安全点検を確実に実施し、修繕や改善が必要な箇所については、速やかに対応する。</p> <p>② 児童が多く使う箇所については、指導者が日常的に点検を行う。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%であり、数値指標を大きく上回った。毎朝校舎内外を見回り、毎月全教職員で安全点検を確実にを行い、可能な限り修繕する等、速やかな対応をしてきた。</p> <p>【次年度の方針】 確実な安全点検の実施を継続するとともに、事務職員や学校業務嘱託員、機動班と連携し、速やかな修繕対応等を心掛ける。</p>
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 「児童はICT機器や図書等を学習に活用している。」 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>情報化社会で生きる資質・能力を育むため、ICT機器や図書等を積極的に活用するなどして、授業を充実させる。</p> <p>① 情報主任を中心に、授業で活用できるデジタル教材等について情報を共有する。</p> <p>② 図書館司書を中心に、学習内容に応じた図書資料等を整備する。</p> <p>③ 発達段階に応じた学校図書館の利用方法について指導する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%であり、数値指標を大きく上回った。情報主任や学校図書館司書を中心に、学習に必要な資料の整備に努めてきた。</p> <p>【次年度の方針】 タブレットの導入に伴い、図書資料とデジタル教材の有効活用法などについて、引き続き研修などを通し個々がよりよく活用していけるよう努める。</p>
<p>B2 教職員は、児童一人一人のよさをほめて伸ばす指導を行っている。</p> <p>【数値指標】 「先生方は、わたしのいいところを認め、ほめてくれる。」 児童の肯定的回答 ⇒90%以上</p>	<p>自己肯定感を育むため、「ほめて伸ばす指導」を充実させるなどして、すべての児童が自信と誇りのもてる学校づくりを推進する。</p> <p>① 「多読賞」「きらり賞」等を通じてよい行いを賞賛する。</p> <p>② 様々な学習の場面で具体的に児童をほめる機会を設け、全員の児童をほめるようにする。</p> <p>③ 児童の頑張りやよい行いを、家庭にも連絡する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答が95%で数値目標を上回った。各学級で児童のよさをほめる機会を設定し、温かい学級経営をしたり、「きらり賞」の表彰の機会を増やしたりしたことによって一人ひとりのよい行いや頑張りやを称賛する場が増えたことで、児童の自己肯定感や自己有用感の向上につながったと考える。そのことが児童の自信につながり、積極的な行動や思いやりのある行動につながってきている。</p> <p>【次年度の方針】 児童の自己肯定感や自己有用感を育むために、引き続き学級や学校全体で称賛する場を多く設定する。また、児童のよい行いを積極的に家庭に発信していき、家庭でも称賛されることで自信につなげていけるようにする。</p>
<p>本校の特色・課題等</p> <p>B3 児童は、地域や学校のために積極的に働いている。</p> <p>【数値目標】 「児童は地域や学校のために積極的に働いている。」 地域住民の肯定的回答 ⇒85%以上</p>	<p>役割を果たす充実感や社会貢献への喜びなどを味わわせるため、地域行事やボランティア活動を体験させるなどして、社会に参画し、協働する力を育む教育を推進する。</p> <p>① 「クリーンアップ in 西」を実施し、校外ボランティア活動を体験させる。</p> <p>② 地域や学校のために働く「子どもボランティア」活動を推進する。</p> <p>③ 総合的な学習の時間における地域単元「ひまわりプロジェクト」において、地域の一員として自分にできることを考えさせ実践させていく。</p>	<p>【達成状況】 地域住民の肯定的回答は、100%であり、数値目標を大きく上回った。「クリーンアップ西」は中止となったが、校内において「子供ボランティア活動」に多くの児童が進んで参加し、仕事を見つけて働こうとする姿が見られた。</p> <p>【次年度の方針】 地域のために働く「クリーンアップ in 西」や学校のために働く「子供ボランティア」の意義を道徳や学級活動等の時間に全学級で考え、発達段階に応じたボランティア活動に取り組めるようにしていく。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【宇都宮市小学校全体との比較】

- ・地域の教育力を生かした教育活動への取組や家庭・地域・企業と連携・協力した児童の育成については、市と比較しても肯定的割合が高い。今年度も状況を見ながら、実施可能な活動に工夫して取り組んできた。
- ・児童のICT機器や図書等の活用について、市と比較して教職員と保護者の肯定的割合が高い。家庭学習においても一人一台端末を活用してきた。
- ・教職員の勤務時間の意識と業務の効率化への取組について、市と比較して肯定的割合が高い。来年度も会議等の精選を図り、授業準備等に時間を確保できるようにしていく。
- ・全体的に特に保護者の肯定的割合が市と比較して低くなっている。特に改善を要する項目は次の通りであり、次年度は、より一層の取組の充実を図っていく。

A17「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」の保護者の肯定的回答－10.5ポイント

A18「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」の保護者の肯定的回答－8.2ポイント

【学校経営】

・A16「教職員は外国人児童等の実態に応じて適切な支援をしている。」A19「学校に関わる教職員全員がチームとなり協力して業務に取り組んでいる。」A20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」については、教職員の肯定的回答が数値指標を大きく上回った。少人数の教職員で専門性を生かしながら協力して、日々業務に取り組んでいる。児童と向き合う時間を確保するため、会議の精選や日課の見直し等を行い、「働き方改革」に取り組んできた。教職員の意識改革を行い、勤務時間管理にも取り組んでいる。今後、さらに教材研究の時間を確保し教職員が健康で生き生きと働きながら、児童主体の活動を工夫していくことで、保護者からの信頼を得られるようにしていく。

○・A21「小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている。」については、教職員の肯定的回答が数値指標を大きく上回った。コロナ禍であるが、中学生の運動会協力や宮っ子チャレンジウイークの実施、中学校教員の乗り入れ授業等、活動を可能な限り実施してきた。地域学校園の小中学校で連絡を密に取り、教科部会や児童生徒指導強化連絡会等、会議のもち方を工夫しながら進めてきた。来年度も新型コロナウイルス感染状況を見ながら、活動の仕方を工夫して積極的に進めていく。

・A22「学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。」A23「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」については、肯定的回答が数値指標を大きく上回った。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となってしまった活動もあったが、「地域が先生」や地域協議会と連携した学習支援ボランティアによる学校支援活動等を実施して、よりよい児童の育成に取り組んできた。地域の教育力を生かした教育活動は本校の特色なので、次年度も積極的に行っていく。

【学習指導】

・A7「児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。」について、保護者の肯定的回答は71.9%であり、数値指標を下回った。学校行事や授業において、目標をもたせ、自分の学びを振り返る活動を行ってきた。今後はさらに自分自身の役割に責任をもって取り組めるように児童を支援するとともに、頑張りを認め励まし、発信できるように努める。また、生活科・総合的な学習の時間で「宮・未来キャリア教育」に深く関連する単元について、学習の振り返りを児童の夢や目標に繋げられるよう指導を工夫したり、キャリアパスポートを有効に活用したりしていく。学年便り等で発信し、家庭との連携を図っていく。

・A10「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」について、児童の肯定的回答は88.7%であり、数値指標を上回っている。情報モラル教育については、道徳を中心に指導してきた。GIGAスクール構想により、タブレットを使用した学習が増え、授業の中で活用し家庭に持ち帰るなど計画的に使用していた。高学年において児童がICT機器を自ら操作するスキルを身に付け、学習活動を展開できている。今後は、さらに情報モラルについて発達段階に応じて指導していく。また、単元に応じて情報機器や図書資料など使い分けると共に、司書教諭との連携を図り指導に当たる。

【児童・生徒指導】

・A2「思いやり」A3「きまり・マナー」A4「あいさつ」B1「異年齢交流」の項目では、児童及び教職員ともに肯定的回答が上昇した。一人ひとりのよさや頑張りを認める場の設定や、きまりやマナーの指導の方向性の徹底などにより、自己肯定感の高まりや、思いやりの心や規範意識の育成に繋がった。次年度さらに高めていくために、「どうして必要なのか」「相手がどう思うのか」などを多面的・多角的に捉えられるような指導を丁寧に行っていくことが必要である。

・いじめ防止や不登校対策では、保護者の数値目標の達成とはいかなかった。未然防止の対策や早期対応を継続していくほか、学校での取り組みを家庭や地域に情報発信し、児童を見守る環境を広げていくことで、いじめ根絶や温かな環境づくりにつなげていきたい。

【健康（体力・保健・食・安全）】

・今年度は、児童や教職員が感染症対策を行い、概ね計画された活動を実施することができた。生活全般でマスクの着用や手洗い等を行うことができて、健康や安全への意識が高まってきている。

- ・引き続き養護教諭や学校栄養士と連携して授業を行い、健康や食への関心を高めることができた。

7 学校関係者評価

【コロナ禍における教育活動について】

- ・コロナ禍で、学校行事や活動が中止になったのは、残念だ。子供たちには、コロナ禍なりの学校生活があり、小規模でもクリーンアップのような生活環境整備は、大人と子供を分けて行っても、欠かすことのできない行事ではないだろうか。
- ・タブレットを使用する機会が早まったため、タイピング等、基本がおろそかになってしまうことが心配である。
- ・良い方向に進んでいることが分かり、日頃の教職員の先生方、地域の御協力くださる皆様の支え等、そうしたものがよい結果となって表れたのだと感謝の思い、ありがたいと思っている。ただ教職員・地域と保護者との意識の中には、仕方がない部分はあると思うが、少々の乖離があり、多くを学校側にのぞむようなイメージがあるのかと思うのと、先生方の取組や努力がもっと保護者側に共有されるといいのかと感じた。いずれにしても日頃の教職員の先生方の御努力には感謝申し上げる。
- ・アンケートの集計比較からも西小における教育は効果がよく表わされていると思う。時折おとずれる職員室の雰囲気も落ち着いた感じがしており、職員間の人間関係の良さが感じられる。

【地域住民にも挨拶を】

- ・A4「児童は時と場に応じた挨拶をしている」の地域住民の肯定回答が低いことが気になった。
- ・地域の方との交流がコロナの影響で少なくなってしまったため、特に低学年の児童が地域の方がどんな人なのか分からず、挨拶ができないのではないかと考えている。私と児童、お互いに顔が分かっている場合、元気よく挨拶してくれる。
- ・地域住民への挨拶ができていないのは、地域の人は誰だか分からない、知らない人には声をかけない、コロナ禍でマスクをしていて顔も覚えづらいこと等が原因として考えられる。見守り用エコバックを持ってもらうことで、地域の人、保護者であることを子供たちに認識してもらいたい。エコバックをもっと広めたい。

【いじめ対策について】

- ・A14「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる」について、しっかりと対応していただいているのを知っているが、保護者と地域住民に伝わらないことが残念である。

【不登校対応について】

- ・A15「教職員は不登校を生まない学級経営を行っている」の項目について、なるべく早い段階で関わっていかないといけないと思います。お忙しいでしょうが、心の健康については、複数の大人がかかわるようお願いいたします。
- ・不登校対応に対する児童の肯定値が上がっているのは、とても好感が持てる。今後も児童が安心して登校・相談できるよう、目配り等を引き続きお願いします。
- ・不登校はいけないことなのか…。オンラインが進むようになって不登校であっても自分の居心地の良い環境で学習することを選択できるいい機会かと思う。特にコロナ禍で、感染を心配する日々があれば休むことが増えても、同じようにクラスの様子に分かったり、いつでも戻れるのが当たり前になればいいと思う。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○「ベストフェスタ in 西」、「クリーンアップ in 西」、「地域が先生」や地域協議会と連携した学校支援ボランティアによる学校支援活動など、地域の教育力を生かした教育活動は本校の特色である。今年度も中止となったものが多かったが、コロナ禍においても、活動の仕方を工夫しながら、できる活動は積極的に実施し、地域や保護者との連携のもと、よりよい児童の育成に取り組んでいく。

- ・学校行事や児童会活動等で児童主体の活動を実施するとともに、児童が自信をもって行動できるよう支援していく。また、学習においては、ICTを有効に活用し個別支援に生かすとともに、少人数指導・習熟度別学習・かがやきルームの活用等、一人一人へのきめ細やかな指導を継続する。教職員の授業研究の機会を増やし、授業力向上にも取り組んでいく。
- ・規範意識を高めるための取組を継続するとともに、一人一人の児童の頑張りを見取り賞賛していくことで、自己肯定感を高めていく。登校時等、地域住民の方に進んで挨拶ができるよう支援していく。
- ・いじめや不登校の未然防止対策や早期対応に取り組むほか、学校での取り組みを家庭や地域に情報発信し、連携を図っていく。
- ・養護教諭・学校栄養士や外部団体と連携した授業を実施し、健康・安全への意識を高めていく。